

こぢこぢ

ARCHITECTURAL DESIGN STUDIO
KODIKODI

サンドイッチハウス	2007 - 2008
Room 402	2009
プロカントハウス	2010 - 2011
中庭のある家	2010 - 2012
フレーバーハウス	2011 - 2012
9坪ハウス	2012 - 2013

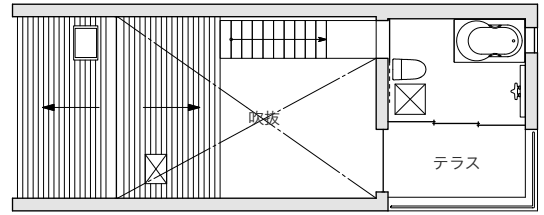
サンドイッチハウス 2007 - 2008

私の姉家族が見つめてきた20坪の敷地は、小さな町工場と住宅が密集した下町風情漂う通りにあった。細長い敷地の3方には隣家が建ち並び、道路を挟んだお向かいさんには、ワンルームマンションがこちらに向かって建っていた。

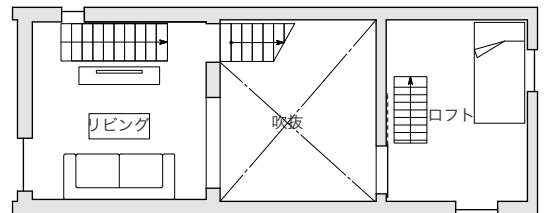
この小さな敷地で、プライバシーを確保しつつも明るく快適な家をつくるか？ そのヒントを探していた折、義兄の口から「背戸（せど）」という聞き慣れない言葉を耳にした。

農家を営む群馬の実家には、母屋と納屋の間に作業場となる中庭のような場所があり、暮らしに密着したその外部空間を背戸と呼ぶのだそうだ。実際に群馬を訪れ、そこで過ごしてみると、何とも表現しがたい不思議な心地よさを感じる場所だった。もしかしたら、母屋と納屋の間にたまたま残っちゃった場所、という認識が、素の自分をおおらかに受け入れてくれるような感覚を呼び起こさせているのかもしれない。

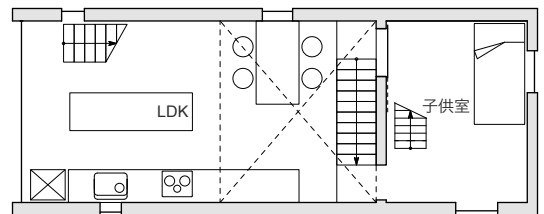
さて、東京の敷地であろうと、たまたま残っちゃった背戸をつくるためには母屋と納屋が必要不可欠。塔状個室群と小屋型リビングをそれらに見立て、二枚の大きな壁で挟み込んで出来たのがサンドイッチハウスだ。さらに屋外のような明るさと視線の抜けを生み出すために少し大きめの天窓を設け、より背戸感を強調させた。天窓から差し込む日差しは、その角度で移ろう季節を感じさせ、日々の暮らしに彩りを与えている。



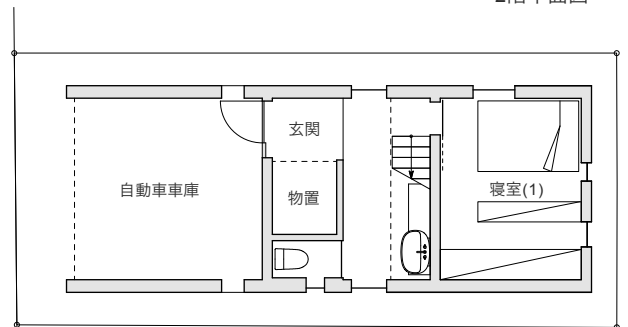
3階上段平面図



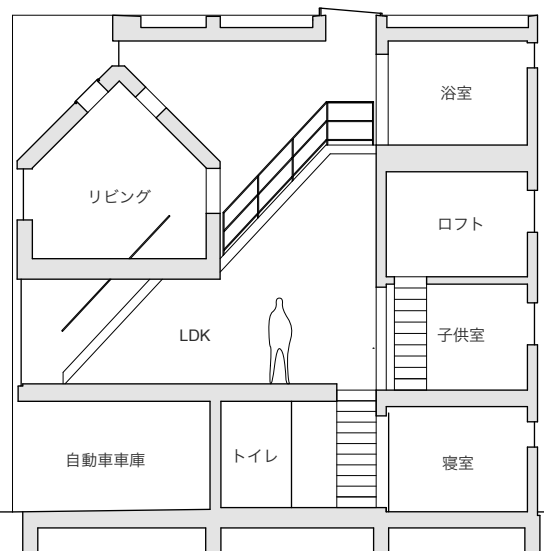
3階平面図



2階平面図



1階平面図



断面図 S=1:150

- 所在地 東京都大田区
- 構造 RC造（壁ラーメン）
- 規模 地上3階＋ロフト
- 敷地面積 64.58 m²
- 建築面積 38.73 m²
- 延べ面積 90.38 m²
- 1階 28.85 m²
- 2階 37.95 m²
- 3階 23.58 m²
- ロフト 11.55 m²
- 設計期間 2007年 1月～
2007年12月
- 工事期間 2008年 1月～
2008年12月
- 用途地域 第二種住居地域
- 防火地域 準防火地域
- メディア Casa BRUTUS 2010年2月号
TV朝日 渡辺篤史の建もの探訪
LiVES Vol.47
Casa BRUTUS 特別編集
「最強の家づくり究極の参考書」

Room402 2009

サンドイッチハウスを終えた私は、建物の出来映えと喜ぶ姉家族の笑顔に、充実感を感じていた。しかし同時に、予算の大幅増加を強いてしまったことを深く反省していた。特殊な空間構成を成立させるために構造コストが割高になった上、背戸を演出しようと素材感にこだわったのが原因だった。予算管理の重要性を改めて肝に銘じ、次の機会にどう生かそうかと思ったとき、ふとひとつの疑問が頭に浮かんだ。空間構成と素材感、どちらを優先させるのか？それはお施主さんの好みによるよな？と思いつつ、もし自分の家だったら素材感かな？！

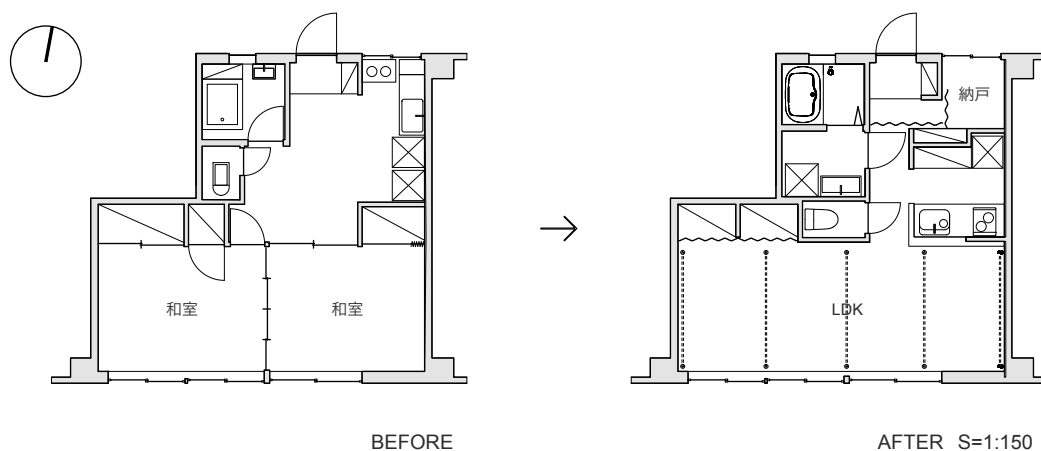
サンドイッチハウスの経験を経て、どうやら自分の好みは変わりつつあるようだった。

そんな折、私が住んでいた賃貸マンションのオーナーさんからリノベーションの相談を持ちかけられた。築38年のマンションの1室をフル改装するのだが、良ければそこに住まないかと。もちろんごちごちさんの好きにして良いよと。二つ返事で快諾したが、37㎡の部屋をどのようなスタンスで設計すべきか…みんなが、アッ！と驚く部屋をつくるのか。はたまた妻と私が

日々をゆったりと過ごせる家をつくるのか。私は後者を選ぶことにした。37年前の躯体とアルミサッシは想像以上にくたびれた感じで、味というより粗野という言葉がぴったりだった。しかしツルピカの質感に違和感を覚えるようになっていた私にとっては、非常に魅力的な素材に思えた。その力強さに負けない素材として、幅広オーク床・木網セメント板・古材足場板・白ガス管を組み合わせ、私たち夫婦のための部屋Room402が出来上がった。

自分が住む家を自ら設計する。この経験は私の設計スタンスに大きな影響を及ぼし、見たこともないような面白い家ではなく、心穏やかに過ごすための「心地のいい家」を目指すきっかけとなった。

※「Room402」は現在ごちごちの仕事場となっています。日に日に味わいが増しているオークの床も実際にご覧になれますので、是非遊びにいらしてください。挽きたての珈琲をご用意してお待ちしています。



所在地	東京都品川区
築年数	38年
構造	RC造（ラーメン）
規模	フラット
延べ面積	36.77㎡
設計期間	2009年5月～ 2009年6月
工事期間	2009年6月～ 2009年9月
メディア	LiVES Vol.48

ブロカントハウス 2010-2011

「木造平屋リフォーム済み！築年数15年！延べ床面積15坪！」
Mさん夫妻が5年前に購入した物件だ。娘と3人、小さな家で暮らしたい！お二人にとっては申し分のない広さだった。しかし、どうしても気に入らないことが一つだけあった。キッチンから食卓までの動線だ。一度、和室を突っ切らなければ食卓のある洋室へ行けなかった。その後息子さんが生まれ、さすがに少し手狭に感じ、どうしたものかと、こぢこぢへ相談する運びとなった。

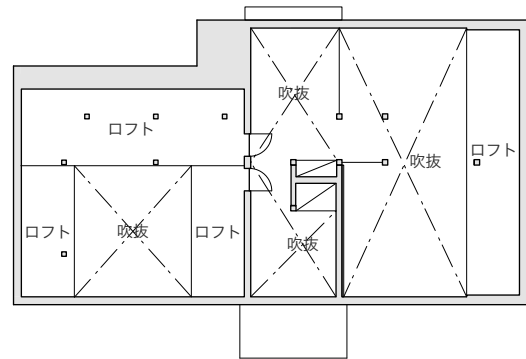
動線問題を解決すべく、キッチン・和室・洋室を隔てる壁を取り払い、足りない床はロフトを設けて補うことで、立体的な広がりのある空間が出来上がった。現れ出てきた松丸太。古民家風を期待したが火打梁はスチール製で、和室の柱は集成材の化

粧単板貼りだった。

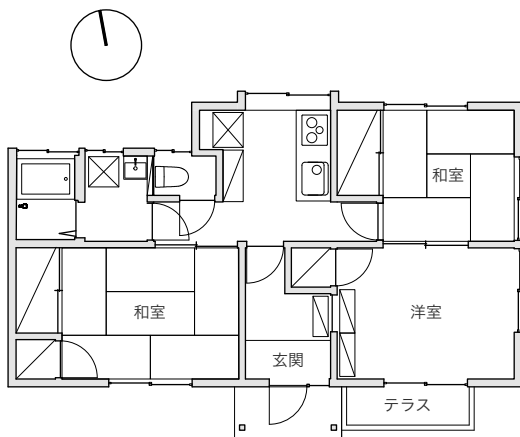
築20年という年数はアンティークと呼ぶにはいささか浅すぎた。見られることを前提としてない構造材。それらの無骨な質感は、まるで何かの道具のように頼もしい風格を漂わせていた。空間の統一感を図るため、床・壁・天井はもとより、棚や手摺・カーテンレールに至るまで、可能な限り無垢材を使用した。木でも鉄でも理屈抜きにムクが合っていた。

この家を貫いている世界観。それを表すピッタリの言葉が見つかった。ブロカント（BROCANTE）というフランスの言葉だ。「アンティークほどの年月が経っていない、人々に愛されてきた古道具」という意味だ。これからも住まい手から愛され続けて欲しいという思いを込め、ブロカントハウスと命名した。

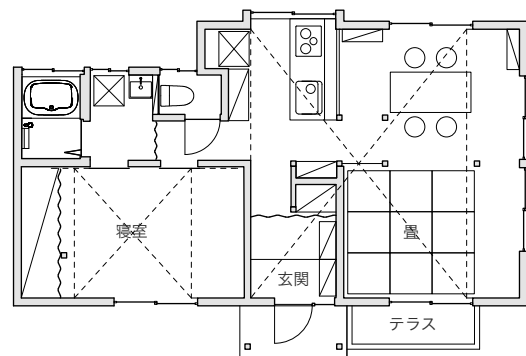
所在地	神奈川県平塚市
築年数	20年
構造	木造
規模	平屋+ロフト
延べ面積	51.34(+ロフト18.38) m ²
設計期間	2010年1月～ 2011年4月
工事期間	2011年5月～ 2011年7月
メディア	LIVES Vol.70



ロフト階平面図



既存 1階平面図



1階平面図 S=1:150

中庭のある家 2010 - 2012

仲良くしている工務店から「紹介したいお施主さん（候補）がいる」との電話があった。程なく送られてきた要望書。部屋の数から階段幅にいたるまで、かなり細かな内容だったがパティオの文字を見つけた時、私の顔はほころんだ。中庭プランは積年の夢。新宿からほど近いその土地に、プライバシーの守られた光あふれる静かな庭を！かくして [中庭のある家]は始まった。正方形に近いその敷地には厳しい道路斜線の規制が掛かり、隣地の2面も北側斜線の規制があった。床面積の最大確保を目指しつつ、広めの中庭も確保したい。内から外へ押し広げようと試みる度、斜線規制で押し戻された。繰り返されたせめぎ合い。

家族にとっての最適サイズが導き出された。

Room402に暮らして以来、私の中でインテリアの重要度が日増しに膨れ上がっていた。特に無垢の木が私に与えた影響は大きかった。手触り足触りも然ることながら、時間とともに増すその風合いにすっかり魅了されていた。無垢の木から教わった「経年変化」という概念。それは他の素材や家具を選ぶ際にも一つの大きな基準となった。

「古びたときに美しさを増す素材」「時代の変化に耐え抜くデザイン」という眼差しの前では、モダンやカントリーといったカテゴリーはもはや何の意味も持たなかった。

所在地	東京都新宿区
構造	RC造（壁式）
規模	地上3階
敷地面積	114.76 m ²
建築面積	84.79 m ²
延べ面積	207.37 m ²
1階	83.51 m ²
2階	80.22 m ²
3階	53.05 m ²
設計期間	2010年7月～ 2011年8月
工事期間	2011年8月～ 2012年5月
用途地域	第一種住居地域
防火地域	準防火地域

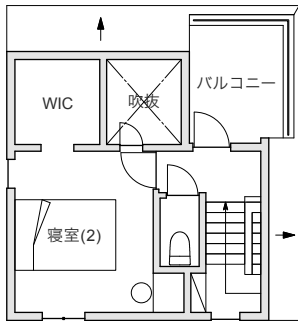
フレイバーハウス 2011 - 2012

週に一度は映画を見るのが日課となっているご夫婦。スクリーンを通して、あらゆる地域の多様な暮らしを目にしていたが、とりわけParisやNYのライフスタイルに強く惹かれていた。二人が求めたのは機能を満たす箱ではなく、趣のある空気感だ。通常、お施主さんが入居後に買う家具小物類は、建築が固まった後に合わせて選ぶ、いわば脇役といったところだが、この家の家具達はむしろ主役と言っても過言ではない。ソファ・イス・テーブル・キャビネット・照明器具・カーテン・壁のデコレーション・ラグマット・観葉植物は世界観づくりの

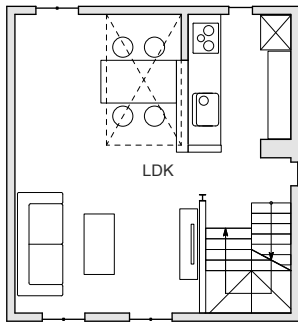
主役であり、高天井(2.75m)・縦長の窓・窓の額縁・幅木・ガラスブロック・鉄骨階段・H鋼柱・リブ状梁型・吹抜け・オーク床等の建築部材も、もちろん主役だ。

本当の主役はお施主さんだけど・・・

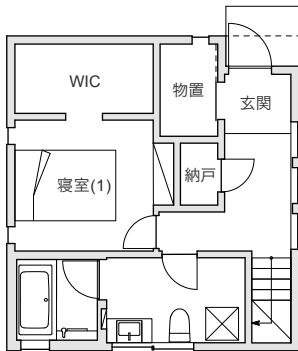
結局、全ての家具や小物が揃うまでに思った以上の時間がかかり、竣工写真の撮影は引き渡しから1年後となった。しかし、ご夫婦にとってはまだ終わりではない。年月を重ねるにつれて役者が増え、無垢床は味わいを増していく・・・よりいっそう深まる趣(Flavor)を、これからも楽しみ続けていこう。



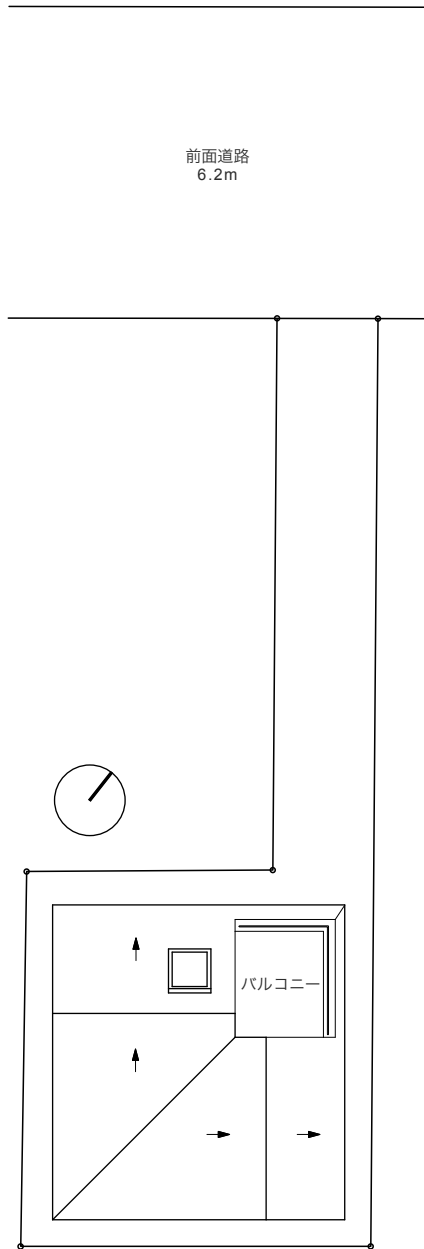
3階平面図



2階平面図

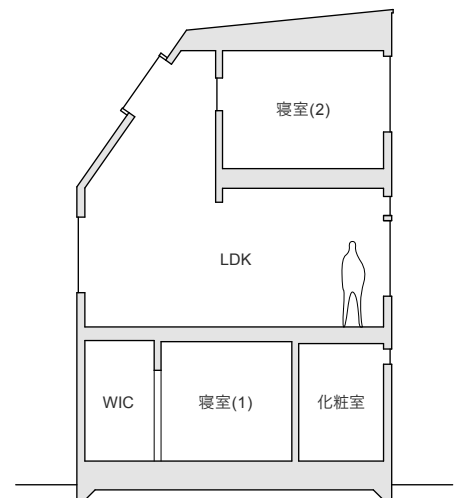


1階平面図



配置図

所在地	東京都大田区
構造	木造
規模	地上3階
敷地面積	73.43 m ²
建築面積	33.99 m ²
延べ面積	90.75 m ²
	1階 23.64 m ²
	2階 33.99 m ²
	3階 33.12 m ²
設計期間	2011年10月～ 2012年 5月
工事期間	2012年 5月～ 2012年 9月
用途地域	第一種住居地域
防火地域	準防火地域
メディア	PLUS 1 Living LEE 100%Life



断面図 S=1:150

9坪ハウス 2012 - 2013

大きな街道沿いに虫食い状の不整形なコインパーキングがあり、そこに面して古い空き家が点在している、そんな奇妙な一角があった。

この将来の大規模マンション用地に、期間限定の賃貸木造戸建住宅を建てたいという相談を持ちかけられた。事情が事情なのでもちろんローコストが大前提だが、ローコストなりにも入居者を魅了する物件にしたいという要望だった。かなり難しい要望に思えたが、何はともあれ賃貸住居の事例である私の自邸「Room402」を見てもらうことにした。

まず気に入ってくれたのがオーク床をはじめとする「素材感」。そして天井にしつらえた「ハンガーパイプ」もツボにはまったようだ。

「ハンガーパイプ」は室内物干・ペンダント照明・観葉植物・ハンモック・絵・棚等を吊るすことができる上、間仕切りカーテンのレールとしても利用でき、入居者が自らの手で部屋をカスタマイズして楽しむための「仕掛け」であった。

さて、ローコストかつ魅力的な物件を実現するために先ず行ったのは、予算配分の方針を決めることだ。入居者にとって大事なことは、家の中で一番長い時間を過ごす場所であるLDKの居

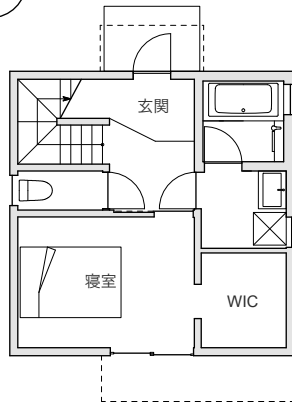
心地だろう。

そこで、LDKだけにはそれなりのコストを裂き、それ以外、つまり、外装材や1階の内装材等はできる限り安価なものとする事で、全体予算の範囲内に納めることを目論んだ。

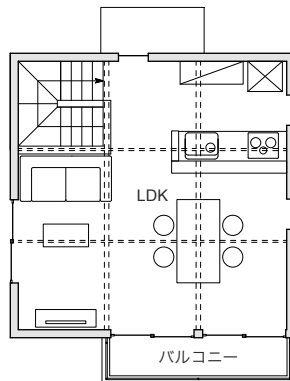
「こだわり」のために大胆な「割り切り」を行うことで、結果的にはオーク無垢床・ベイツガ荒板天井・トドマツ荒板壁を使用することができた。

この建物で最も特徴的なのが黒皮仕上げの鉄骨トラス。初めは木の柱・梁を現しにしようと思ったが、防火の理由で断念した。このサイズの建物であれば、柱・梁のない一室空間を構造的に成立させるのはさほど難しいことではなかった。しかし9坪の単なるボカンとした空間を想像すると、ただ開放的なだけの面白みのない空間に思えてならなかった。

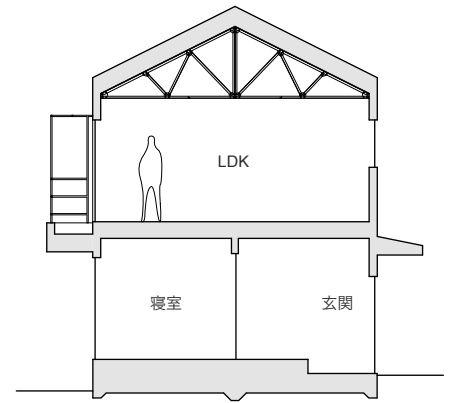
そこで思いついたのが鉄骨トラス。どこか懐かしい雰囲気がこの建物と立地にはピッタリな気がした。安価な細い部材の組み合わせと簡単な加工で成り立つ鉄骨トラスは、鉄骨階段1基程度のコストアップで納まった。9坪の空間を井桁状に9分割する鉄骨部材は入居者の遊び心を受け止める楽しい「仕掛け」となるだろう。



1階平面図



2階平面図



断面図 S=1:150

所在地	東京都品川区
構造	木造
規模	地上2階
敷地面積	67.52 m ²
建築面積	29.81 m ²
延べ面積	59.62 m ²
	1階 29.81 m ²
	2階 29.81 m ²
設計期間	2012年10月～ 2012年12月
工事期間	2013年01月～ 2013年04月
用途地域	商業地域
防火地域	防火地域